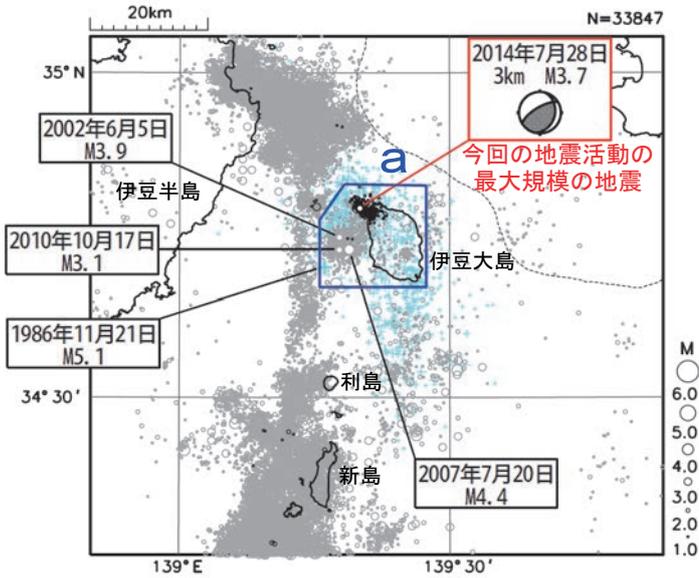


7 月 23 日からの伊豆大島近海の地震活動

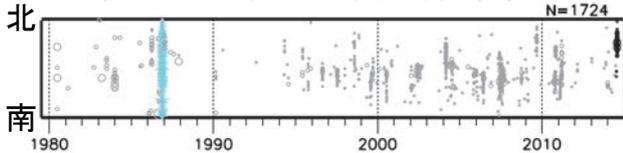
震央分布図

(1980 年 1 月 1 日～2014 年 7 月 31 日、
深さ 0～20km、 $M \geq 1.0$)

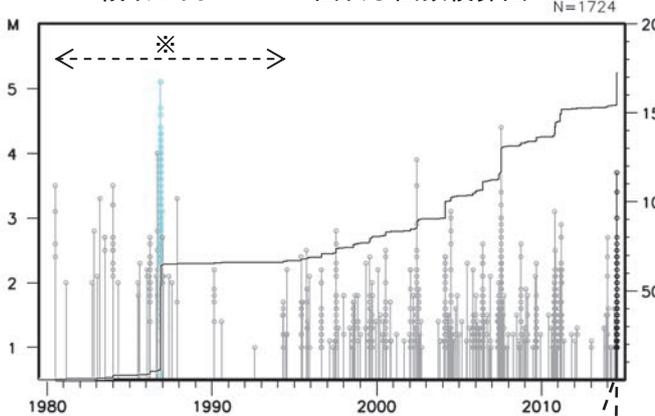
「昭和 61 年 (1986 年) 伊豆大島噴火」時の 1986 年 11 月と 12 月の地震を +、2014 年 7 月の地震を ○、その他の期間の地震を ● で表示



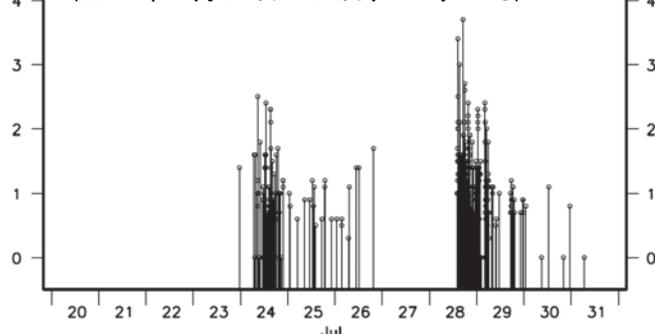
領域 a 内の時空間分布図 (南北投影)



領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



領域 a 内の M-T 図 (2014 年 7 月 20 日～31 日、M すべて)



※地震の検知能力が低い (M の小さい地震が捉えられていない) 期間

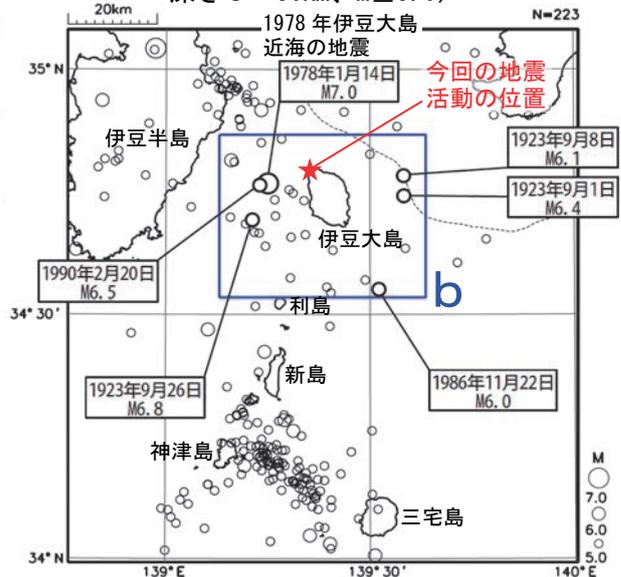
2014 年 7 月 23 日から伊豆大島近海 (伊豆大島北部付近) のごく浅い場所で地震活動が活発になり、29 日までに震度 1 以上を観測する地震が 17 回発生した (最大震度別の回数は、震度 3 : 1 回、震度 2 : 3 回、震度 1 : 13 回)。30 日以降、活動は低調である。今回の活動における最大規模の地震は、28 日 17 時 05 分に深さ 3 km で発生した $M3.7$ の地震 (最大震度 3) である。この地震の発震機構は、北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。なお、伊豆大島の火山観測によると、地震以外の観測データに特段の変化はみられず、噴火の兆候は認められない。

1980 年 1 月以降の活動を見ると、今回の活動域の周辺 (領域 a) では、1 年から数年毎に活動が活発になる。最近では 2007 年 7 月や 2010 年 10 月にまとまった活動があった。また、1986 年 11 月から 12 月には、「昭和 61 年 (1986 年) 伊豆大島噴火」に伴うまとまった活動があった。

1923 年 1 月以降の活動を見ると、今回の活動域の西方で 1978 年 1 月 14 日に発生した $M7.0$ の地震 (最大震度 5、「1978 年伊豆大島近海の地震」) により、死者 25 名、住家全壊 96 棟など主として伊豆半島で被害を生じた (「日本被害地震総覧」による)。また、この地震により、伊豆大島岡田で 70cm (全振幅) の津波を観測した。

震央分布図

(1923 年 1 月 1 日～2014 年 7 月 31 日、
深さ 0～50km、 $M \geq 5.0$)



領域 b 内の M-T 図

